

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

2022/03/28

共同利用・共同研究課題

「現代アラブ君主制における正統性原理の変容と再興—イスラーム主義との相克」

2021年度第1回研究会（通算第4回目）実施報告

日時 2022年3月25日 19:00～21:30（日本時間）

場所 オンライン開催（Zoom）

参加者 7名（石黒、錦田、白谷、堀抜、ハッシュヤーン、マグラーウィー、ゼルフーニー）

内容 前年度

研究会で各委員が提示した執筆担当予定の内容構想に基づく執筆状況についての確認とともに、各章で取り上げる内容についての調整と研究動向の変化を鑑みた全体の議論の枠組みについての再検討を行った。

本研究会では、アラブ君主制8カ国（モロッコ、ヨルダン、サウジアラビア、オマーン、UAE、カタール、バーレーン、クウェート）の政治変動に対する耐性に着目し、体制の安定性がどのように維持されてきたのか、そのメカニズムの解明を目的とする。当初は統治の正統性原理に焦点をあて、体制側とイスラーム主義の政治運動との対抗/協力関係を中心に論じる計画であったが、研究動向の変化や類似する近刊の単行書との差異化等を考慮しつつ、各委員の問題関心に基づき全体の議論の枠組みについて議論と検討を行ってきた。本来であれば、最終年度となる本年度も東京（AA研）とベイルート（JaCMES）とで交互の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受けて、前回欠席の共同研究員とメール等で適宜進捗の確認に努めつつ、研究会をオンラインで開催した。

研究会では、各委員が提示した執筆担当予定の内容構想に基づく執筆状況についての確認とともに、各章で取り上げる内容と全体の議論の枠組みとの整合性や位置付けについて検討を行った。既にこれまでの検討において、イスラーム主義の政治運動との関りやアラブの春と関連付けた議論は、近年の研究動向や最終成果が刊行された際の時点からみると時代遅れの感が出てきたこと、最終成果の形態としての刊行物には、理論部分については複数の章を設けず単一とし、全体の統一した議論の切り口を提示することを確認したことを踏まえて、統治の正統性原理に焦点をあてつつ全体の議論の枠組みについて検討を進めてきたが、君主制を権威主義体制の一類型として位置づけて制度的な側面から論じるか、君主制の内面に着目し、君主による国民からの忠誠獲得・支持調達の具体的な取り組みについて論じるか、という異なる志向性と各論の位置付けの調整が課題であった。これについて、今回の検討によって、権威主義体制において、民主的な諸制度が体制維持のためにどのように用いられているのか/作用しているのかという政治工学（Political Engineering）の観点からアラブ諸国の君主制の特性を抽出すること、そのための第一の方法として、議会（および諮問

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

評議会など立法権を有しない関連する合議体を含む)の役割に焦点をあてることを確認した。また、統治の貫徹という観点から徴税や徴兵制にも視点を向けることについて提起され、引き続き検討することとなった。

3年間で最終成果の刊行という目標を達成することはできなかったが、引き続き研究内容を深めて執筆作業を進め最終成果の刊行を目指すべく、本研究課題終了後も執筆者(共同研究員)との間で進捗確認等のため任意の会合を継続すること、学術出版のための方法として、代表者および共同研究員の所属機関(海外含む)における研究助成および然るべき出版助成を得るための作業を並行して進めていくことを確認した。

(以上)